

令和五年度 鍵谷祭協賛垣生中俳句会（五月） 入賞作品

金賞

夏近し友の水筒氷鳴り

一年

「氷鳴る」と「氷鳴り」、皆さんはどちらがいいと思いますか。きりつとした感じにしたのなら前者、何か余韻を持たせたいなら後者でしょうか。一文字、二文字の違いで俳句の印象や、意味や、韻律が変わってくるところが面白いところですね。ともあれ、友人の水筒、その氷の音に作者が注目したところが巧みで、それが多くの票を集めた所以でしょう。上五（初めの五文字）で潔く切ったところも好感が持てます。



銀賞

薫風や大仏仰ぎ漏れる声

三年

薫風（くんぷう）とは、初夏に新緑の間を吹き抜けてくる風のこと。「風薫る」と和語で表現することもあります。この句には漢語がぴったりですね。修学旅行で見た東大寺の大仏は想像を超えて大きく荘厳でした。見上げて思わず感嘆の声がこちらで上がったのを実際に聞いた私にはとても共感できる句です。皆さんも、次回少し難しい、なじみ薄い季語を使ってみる・・・という挑戦をしてみましよう。



銀賞

夏近し思い出しまう衣替え

三年

「夏近し」と「衣替え」で季重なりとなり、一般的には避けたいところですが、「夏近し」の方に主眼があると捉えました。衣替えは季節が変わるごことになされるもの。ただ、俳句の世界では「初夏」とされています。作者の視点が、新たに出す夏の衣服ではなく、しまわれる冬の衣服にあることが新鮮です。上五で切れているのも俳句の韻律が美しくなるのに一役買っています。

銅賞

三年の月日が空いた苺狩り

一年

コロナに関する様々な縛りもようやくやく解けた今日この頃。振り返ってみると三年もの間、辛抱したり、闘ったりしてきたのですね。そこからの解放は晴れやかな気持ちもひとしおです。ゴールデンウィークに家族で苺狩りに出かけたのでしょうか。三年分を取り戻すように、たくさん食べたのかなと楽しい気分になりました。

銅賞

青空とほのかに香る夏蜜柑

二年

青空と夏蜜柑、いかにも爽やかで清々しい取り合わせですね。青色と黄色で、視覚に訴え、さらに「ほのかに香る」と嗅覚にも訴えてきます。作者のお気に入りを並べただけに見えますが、観賞する側は、様々に想像を広げられますね。

銅賞

風薫る歩みを止めてひと呼吸

三年

若葉を吹き渡る爽やかな初夏の風。その季語を上五にもってきて、「切れ」を作ったことで、すっきりした韻律になりました。目にも鮮やかな若葉の中を歩いた奈良の公園での歩みを思いました。ガイドさんの説明を聞きながら、ふと立ち止まって深呼吸したのでしょうか。緑の風を体中に吸ってまた歩み始めます。

入選

- 薫風や眠気を誘う二校時目 一年
- 夏近し中学校にまだ慣れぬ 一年
- 苺食べあまくておいしいうふふのふ 一年
- 新キャベツ今日のご飯はなんだろう 一年
- わかんねえアスパラガスってなんなんだ 二年
- 鯉のぼり見上げる空は強い青 二年
- 午後三時音楽室から景色よし 三年
- 初夏の風床に散らばる問題集 三年
- 休憩のサービスエリアつばめの子 三年
- 弟の音読聞いて夏蜜柑 三年
- バス停で空豆と待つ高速バス 三年
- 筍ごはん松山あげ入り母の味 三年
- 風薫る鍵谷堂前吹き渡る 三年
- 似合ってる母の笑顔とカーネーション 三年
- 新緑と清水寺に魅了され 三年

